

「人を対象とする生命科学・医学系研究についての情報公開文書」

ドナー応諾率をあげるための効果的メッセージの改善案についての効果検証を実施しました。

研究完了後には、あらためて本ホームページに詳細な研究結果を公表する予定です。

【研究課題名】骨髄バンク ドナーコーディネート初期行程におけるコーディネート進行率増加を目指した介入研究

【研究の目的】日本骨髄バンクを介して造血幹細胞移植ができる患者は約 60%であり、移植できなかった患者の約 30%（登録患者全体の約 10%）は死亡している。日本骨髄バンクを介した移植ができない大きな原因は移植までのプロセス（コーディネート）の早期の段階で主にドナー候補者側の理由で中断してしまうことにある。こうした背景から、本研究は行動経済学に基づき、適合通知を受けたドナー候補者がコーディネーションの進行率を高め、患者の治療成績向上につながるメッセージを作成し、その効果を検証することを目的とする。

【実施した研究の方法】骨髄バンクがドナー候補者を確定した後に送付する「適合通知」を、従来用いられてきた通知文に行動経済学的なナッジメッセージを追加したものを 3 種類作成する。従来の通知文と新たに作成した 3 種類の通知文の合計 4 種類の通知文を、1 週間おきに変更する形で、ランダム化比較試験（RCT）を 6 か月間実施した。

【研究の対象となる方】2021 年 9 月 6 日から 2022 年 2 月 27 日までの間に日本骨髄バンクより「適合通知」でコーディネート開始をお知らせしたドナー対象者

本研究において個人情報はいませんが、得られた情報に関しては厳重に管理し、医学雑誌等に結果を公表する場合にも個人を特定できないかたちで行います。

【研究の主な解析結果】日本骨髄バンクと協力して、登録ドナーの幹細胞提供意欲を高めることを目的とした情報提供介入のフィールド実験を実施しました。患者ごとの潜在的なドナーの数が少ないことについての情報を提供することで、20 代の男性の幹細胞提供意欲が 25%増加したことがわかりました。また、早期の調整が患者の移植率を高めることを知ることが、20 代の女性に早期に反応するよう促すことがわかりました。これらの結果から、ドナーへの情報提供は特定の性別や年齢のドナーにのみ影響を及ぼし、より良い移植成績を持つ若いドナーの行動変化を促すことが示唆されました。

【研究責任者】厚生労働科学研究費補助金・移植医療基盤整備研究事業（22FF1002）「骨髄バンクドナーの提供体制強化と若年ドナーの確保・リテンションへ向けた適切な介入方法の確立のための研究」分担研究「ドナーコーディネート初期行程におけるコーディネート進行

率増加を目指した介入研究」

大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授 大竹文雄

Email: ohtake@cider.osaka-u.ac.jp

Tel: 06-6850-5254

【研究実施期間】 2021年9月6日～2022年2月27日

(研究論文受理日をもって研究完了とする)

●分担研究者所属氏名

伊那中央病院 黒澤彩子

国立がん研究センター中央病院 福田隆浩

大阪大学経済学研究科 博士後期課程 加藤大貴

東京大学医学部附属病院 心療内科 吉内一浩

●研究協力者

日本骨髄バンク